

4. キャンパス計画

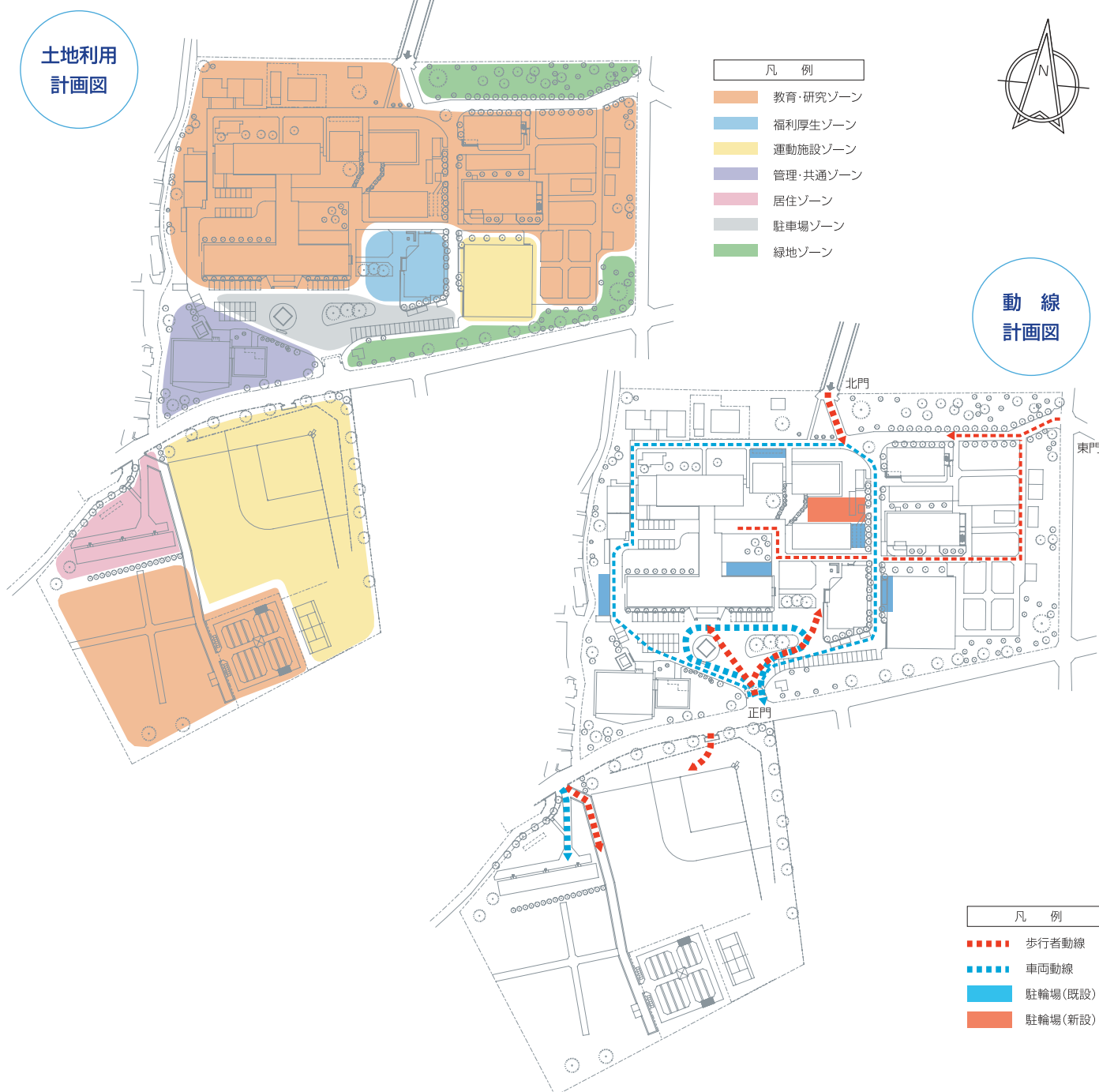
4.1 施設整備の将来構想

4.1.1 キャンパスの骨格

1) 土地利用の考え方

北地区は薬学部・生命資源研究・支援センターの教育研究のための主要団地、南地区は運動場と附属薬用植物園及び職員宿舎のための団地として計画的に整備を進めていく。

ゾーニングについては既設の施設配置を基本として、北地区については教育・研究ゾーンを主体に、一部福利厚生ゾーンと運動施設ゾーンを配置する。また、教育・研究ゾーンの東側部分は薬用植物園のスペースとする。南地区については敷地南西部を薬用植物園のための教育・研究ゾーン、北西部を職員宿舎のための居住ゾーン、東側を運動施設ゾーンとする。緑化については、居住ゾーンと他のゾーンとの間に緩衝植栽を配置する。



2) 主要動線の考え方

北地区については車の進入するメインアプローチとして正門、人のみのサブアプローチとして北門、東門の2カ所とする。

3) 駐車場・駐輪場の考え方

駐車場スペースは、薬学部本館出入口近くに設置し、無用な車両の進入を防ぐ。駐輪場スペースは、既存施設に加え講義室北側に設置し、学生の利便性と安全性を確保する。



4. キャンパス計画

4.1 施設整備の将来構想

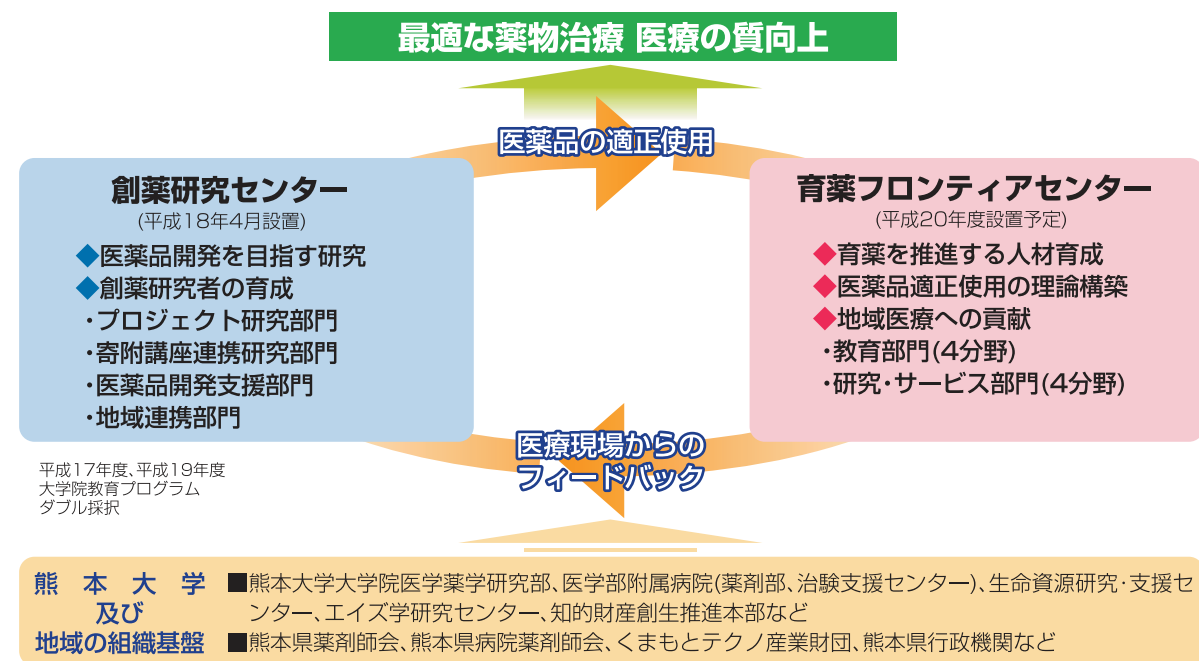
4.1.2 施設整備の方針

1) 施設の新増築及び再生

近年、大江キャンパスでは、大江総合研究棟の新築により約2,800㎡の施設整備を計画的に行ってきた。しかしながら、平成18年度の薬剤師養成6年生課程「薬学科」の設置と、従来の4年制学科の特色を活かした研究者養成に特化した「創薬・生命薬科学科」の設置に伴い、整備率67.2%と他のキャンパスに比べて狭隘化が進んでいる。現在は既存施設の利用状況を点検し、機能の集約化や効率化を進めることにより施設対応を行っているが、今後の創薬研究センターの整備拡充や育薬フロンティアセンターの設置を踏まえた狭隘解消のための増築による施設整備を実施する。また、既存施設の改修整備による有効利用等、新築整備と改修整備によるバランスの取れた施設整備を実施していく。



改修前：共同実験棟
改修後：薬学部附属育薬フロンティアセンター



2) 施設の情報化

多様な人材が意欲と能力を発揮し、世界に通用する教育研究活動を可能とする情報ネットワーク等の情報化対応設備の充実を図る。

3) 耐震化の促進

地震発生時に学生、教職員等の安全を確保するために、施設の耐震性能の向上を積極的に図っていくことは重要な課題である。

大江キャンパスにおいては、現行の耐震設計基準以前に建てられた建物が施設全体の約5割を占めており、学生等の日常的な利用に供する建物を含め、耐震診断を実施し、必要に応じて耐震補強を行ってきた。この結果、耐震化率は9割強を達成した。残る施設も計画的な耐震改修を行う。

改修前



改修後：薬学部本館耐震補強

4) 適切な施設の維持管理の実施

大学施設を永続的に運営していくためには、施設の老朽化をできる限り防いでいく必要がある。そのためには、内外装や附帯設備の老朽劣化状況などの基本的性能や、教育・研究機能、使用状況、利用効率等の現況を調査、把握し、施設がもつ潜在的なリスクに対して予防的な措置を効果的に実施する必要がある。



5) アメニティーの充実

学内での豊かなコミュニケーションを促進するため、緑あふれる語らいの広場、ラウンジ、アトリウム等のアメニティースペースを快適なキャンパス空間として整備する。



宮本記念館ホール

6) ユニバーサルデザインの促進

年齢や性別、能力の如何にかかわらず、全ての人が利用できるようにモノや空間をデザインするというユニバーサルデザインの理念に基づき、大江キャンパスの施設を計画する。具体的には、スロープによる段差の解消やスムーズに通過できる広い出入口、多目的トイレ、わかりやすいサイン計画等の方策を検討、実践していく。その際、「ハートビル法」「熊本県やさしいまちづくり条例」等の基準を満足することはもちろんのこと、機能性と審美性を備えた、さりげなく、美しく、できる限り安全で、快適に多くの人のアクセスを可能にするユニバーサルデザインを施設整備の中に取り入れていく。



7) 保存緑地と保存建物

緑化については、北地区正門の楠の大樹をキャンパスのシンボルツリーとして保存する。正門周辺や敷地外周部の樹木を周辺の市街地との緩衝緑地として位置付け、環境と豊かなキャンパス空間維持のため保全していく。また、北地区公道沿いの楠の林も「熊葉の森」として広く市民に親しまれており、保存建物の宮本記念館、薬学部資料館とあわせて保存する。



楠の大樹

熊葉の森

8) エコキャンパスの推進

人と環境にやさしいキャンパスを目指して、省エネ、資源リサイクル、環境美化等の観点から、エコキャンパスの実現に向けて取り組んでいく。緑地保全を兼ねたアメニティースペースの整備や、パッシブエネルギーを積極的に活用した施設整備の検討、グリーン購入法の遵守及び資源リサイクルの向上等に努め、環境負荷の少ないキャンパス計画を目指す。



屋上緑化